

令和2年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標		「心豊かに たくましく 共に歩み 共に生きる生徒」の育成	
推進主体		校長・教頭・研究推進・教育課程・各教科代表による研究推進委員会を中心として推進している。	
学力に関する前年度の状況・経年の課題等			
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域の結果が良好であった。これは、1学年から取り組んでいる「朝学習」の効果が表れてきているものと思われる。また、書写の授業で、実際に家書や年賀状を書かせており、伝統的な文化に対する知識・理解が進んだものと思われる。 ・「しっかりと内容を読み取ったうえで、自分の考えを書く」という分野では課題が見られる。 ・言語についての知識・理解・技能の分野の力がついてきている。
		算数数学	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な計算はよくできている。 ・平行移動の意味を理解し、平面図形を視覚的にイメージできるので成果となって表れている。 ・数学的な表現を用いて説明することに課題がある。 ・式やグラフを用いて、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の内容については概ね理解しているが、応用力を必要とする内容については弱さが見られる。また、学年によっては点数の分布が二極化の傾向が見られる。 	
	授業等からうかがえる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた学習態度で真面目に授業に参加している。積極的な態度で発表もよくしているが、自分の考えを簡潔にまとめて説明したり、感想や説明文を書くことに苦手意識を持つ生徒が見られる。 	
	学力向上生活習慣に関する質問紙の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の規則をよく守り、家庭での基本的な生活習慣も身につけており、概ね良好である。 ・家庭学習の時間は概ね確保できており、宿題もきちんとやっている。 ・予習・復習を計画的に進めることに課題がある。 ・人の役に立ちたいとの思いを持つ生徒が多い。 ・自分の良いところを認められない生徒が少し多い。 ・自分の将来の夢や目標が、まだ持っていない生徒の割合が高い。 	
学校評価などの学状況	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に落ち着いた真面目な学習態度で取り組んでいる。家庭学習の習慣化についても向上傾向にあるが、今後も引き続き家庭への啓発や、小中で連携した家庭学習の定着への取り組みが必要である。 ・朝活動ごしの清掃活動やボランティア活動を通じて、地域に貢献して感謝されている。 	
	校研修内研究の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育を根幹に「わかる授業づくり」を目指して、めあて・振り返りを各教科で定着させ、学習指導の工夫、授業改善につながる学習指導のための評価について取り組んだ。 ・主体的・対話的で深い学びの視点から、講師を招いての授業研究、研修を行った。また、授業公開週間を2回設けて、教師が互いに学びあう体制づくりをした。 	
家庭・連携・携種間	家庭・地域等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教育への関心が高く、学校教育活動に協力的である。地域活動も活発で学校への支援体制も強い。近年、生徒の地域行事への参加を積極的に行い、地域との連携も活発である。 	
	小・中における教科連携等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育を核にした藍中学校区3校の研修体制が従来から取り組まれており、成果を上げている。家庭学習の定着をきめ、小中で連携、継続した学力向上への取り組みを進めている。 	
4月			
学力向上に向けての重点的な目標		成果となる目標	具体的な行動目標
		(指標となる数値等)	(成果目標達成のための具体的な手立て等)
		<ul style="list-style-type: none"> ・「学校・家庭・地域が連携し、自ら学ぶ楽しさ、わかる喜びを実感できる学習指導の在り方～特別支援教育の視点を生かして～」を研究テーマとして、すべての生徒に分かりやすい学習指導の工夫、授業改善につながる学習指導のための評価に取り組み、確かな学力を身につけさせる。 ・家庭への啓発及び連携により、家庭学習の定着をより進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回以上の研究授業・研究討議及び授業公開を実施する。 ・講師を招き、授業改善に向けて、指導力向上のための研修を1回、授業公開週間を2回設定する。さらに研究討議から具体的な共通実践事項を明確にしていく。 ・生徒に「学びのステップ」「学びの心構え」を明示し、学校全体で共通した学習への取り組み姿勢を確立する。 ・授業公開週間だけでなく、日頃の授業参観も活発に行い、互いに学び高めあう教師集団作り努める。
		<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育を基盤にした小中連携の成果を踏まえ、学力向上の視点からの連携をより一層進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・藍中学校区3校全教職員の交流研修の実施と内容の充実を図る。 ・家庭学習の定着を進め、学力向上への具体策を検討する。 ・小学校教職員及び6年生保護者対象の進路説明会を3回実施する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫型体験活動を通して達成感や自己有用感を高め、自分らしい生き方を実現するための力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トライやるウィークでの経験を渡し、自分の将来を考え、学ぶことや働くことの意義、役割の理解を図る。キャリアアートを積極的に活用して進路学習との連携を進める。 ・トライやるウィークと3年生での進路学習の中で、講師を招きマナーアップ講座を行う。社会に必要な礼儀や挨拶等を学び、社会と関わる力を身につけさせ、自己認識や自尊感情を高める。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の共通実践により、規律ある学習習慣の確立を図る。基礎学力の定着を目的として、「学習タイム」で2、3年生は5教科、1年生は3教科の朝学習を行う。時期を決め、読書の時間も設定して、落ち着いた学習への姿勢を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究を進め、授業における学校としての統一スタイルを徹底する。「ひょうごがんばりタイム」の活用により、基礎・基本の定着を図る補充学習に取り組む。 ・授業の「めあて」と「振り返り」を共通して取り組む。学習規律を保ちながら、落ち着いた雰囲気や学習活動を展開する。また、「学習タイム」の評価により、各自の習熟度を認識させ、「ひょうごがんばりタイム」との連携により補充学習を行い、基礎基本の定着を進める。
		<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談体制の充実を図り、一人ひとりの生活や学習の課題や悩みに柔軟に対応する。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、子どもサポーターとの連携により、生徒に共感し寄り添う指導の深化を図る。また、「ひょうごがんばりタイム」の指導員との連携により、基礎・基本や学習習慣の定着に取り組む。家庭学習の定着に向けて、小中で連携し系統だった啓発・指導を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週木曜日を教育相談日として、さらに毎学期に教育相談週間を設ける。 ・「ひょうごがんばりタイム」の実施により、学習や生活に関わる生徒の不安や悩みの解消に努める。さらに、生徒の思いや願いをくみ取るために、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、子どもサポーターとの連携を進める。生徒との人間的なふれあいを基盤にした生徒指導を実践することで学びの環境を整え、生徒の学習意欲を高める。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校と家庭・地域・事業所等との連携を強め、生徒の体験活動の場を増やす取り組みを図る。様々な体験活動を通して、生徒自身の自己有用感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動ごとの清掃活動等の地域貢献活動や生徒会のボランティア活動をより積極的に進める。 ・地域や家庭、事業所等との連携をさらに進め、地域のまつりや防災訓練、奉仕活動等への中学生ボランティアの参加をより活発にする。
2～3月			
年度末評価			評価
(今年度の成果と来年度に向けた課題等)			